



東京都
西池袋TKデンタル
クリニック

武末 秀剛
先生

今回のアイテム

マックスセムエリート/接着性レジンセメント

e.maxクラウンへの応用

筆者は、チエアサイド

CAD/CAMシステムである
CERECを用いたオールセ
ラミック修復を中心とした日
常臨床を行っているが、
CAD/CAMによるオールセ
ラミックのみならず、その多く
のオールセラミック修復を、長
期にわたり、機能的かつ審美的
な安定性を求める場合、必要不
可欠なものがレジンセメント
である。

リンス&エッチに始まる複
数のステップを伴うレジンセ
メントは、その接着テクノロジー
の進化とともに、1ステップ
さらには0ステップのレジン

セメントへと進化を遂げた。

0ステップのレジンセメン
トとは、つまり、セルフアドヒ
ーズセメントと呼ばれる、い
わゆるボンディングなどの歯
面への操作を一切必要としな
いセメントである。

これは術者や接着時のアシ
スタントにとつては、その操作
のシンプルさだけをとつて見
ると、まるでアイオノマーセメ
ントなどによる合着のそれと
何ら変わらない。

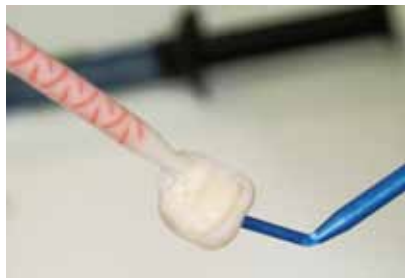
複雑なステップの中には必
ずヒューマンエラーが潜んで
おり、エアブローの手法や防
湿など、術者によるテクニカル

センシティブティーが否めな
い。

昨今、他社も続々とセルフフ
ードヒーシブセメントを世に出
してきているが、Kerr社の
マックスセムエリートは、その
豊富なカラーバリエーション
と安定したプロパティ、そし
てオールセラミック修復にお
いて必須とされてきた、補綴物
へのシラン処理が不要という
点において、他の追随するセル
フアドヒーシブセメントと一
線を画しているため、筆者の臨
床におけるセルフアドヒーシ
ブセメントの第一選択となっ
ている。



セレックによるe.maxクラウン形成直後



セメント、マックスセムエリート(イエロー)を使用



十分な量のセメントを使用して口腔内にセット



ある程度の余剰セメントを除去後、光照射



口腔内にセットした状態



当院のセレックシステムとセラミック専用ファーンেস